
広域ごみ処理施設整備・運営事業
審 査 講 評

平成 23 年 5 月 23 日
広域ごみ処理施設整備・運営事業
提案審査委員会

広域ごみ処理施設整備・運営事業 審査講評
目 次

1 . 事業概要	1
(1) 事業名	1
(2) 事業実施場所	1
(3) 事業期間	1
2 . 審査方法等	1
(1) 事業者選定の方法	1
(2) 最優秀提案者選定までの経過	1
(3) 審査委員会の設置	2
(4) 審査委員会の開催経過	2
(5) 最優秀提案者選定の手順	3
(6) 審査手順	4
(7) 定量化審査について	4
3 . 最優秀提案者の選定結果	9
(1) 資格審査	9
(2) 基礎審査	9
(3) 定量化審査及び提案書に関するヒアリング	10
(4) 最優秀提案者の選定	15
4 . 総評	16

1. 事業概要

(1) 事業名

広域ごみ処理施設整備・運営事業

(2) 事業実施場所

栃木県真岡市堀内地内

(3) 事業期間

事業期間 : 基本契約締結日から平成 46 年 3 月 31 日まで

設計・建設期間 : 建設工事請負契約締結日から平成 26 年 3 月 31 日まで

運営・維持管理期間 : 運営・維持管理開始日から平成 46 年 3 月 31 日まで

2. 審査方法等

(1) 事業者選定の方法

事業者の選定方法は、地方自治法施行令(昭和 22 年政令第 16 号)第 167 条の 10 の 2 に規定する総合評価一般競争入札方式により実施した。

(2) 最優秀提案者選定までの経過

最優秀提案者選定の経過は表 1 のとおりである。

表 1 最優秀提案者選定の経過

日付	内容
平成 22 年 11 月 29 日(月)	入札公告
平成 22 年 11 月 29 日(月) ~ 平成 22 年 12 月 10 日(金)	入札説明書等の公表及び配布
平成 22 年 11 月 29 日(月) ~ 平成 22 年 12 月 10 日(金)	入札説明書等に関する質問の受付(第 1 回)
平成 22 年 12 月 20 日(月)	入札説明書等に関する質問の回答(第 1 回)
平成 23 年 1 月 5 日(水) ~ 平成 23 年 1 月 7 日(金)	参加資格申請書類の受付
平成 23 年 1 月 14 日(金)	資格審査結果の通知
平成 23 年 1 月 7 日(金) ~ 平成 23 年 1 月 14 日(金)	入札説明書等に関する質問の受付(第 2 回) (資格審査通過者対象)
平成 23 年 1 月 21 日(金)	入札説明書等に関する質問の回答(第 2 回)
平成 23 年 2 月 18 日(金)	入札提出書類(入札書及び提案書)の受付
平成 23 年 4 月 12 日(火)	開札、最優秀提案者の選定

(3) 審査委員会の設置

提案審査は、公正性及び透明性を確保し専門的知見に基づく評価を行うことを目的に、学識経験者を含む、以下の5名の委員により構成される広域ごみ処理施設整備・運営事業提案審査委員会（以下「審査委員会」という。）において行った。

[委員の構成]

委員長	栗原 英隆	社団法人全国都市清掃会議技術顧問
副委員長	内田 龍雄	真岡市副市長
委員	瀧澤 雄三	小山工業高等専門学校建築学科教授
委員	安田 憲二	独立行政法人国立環境研究所客員研究員
委員	法師人 弘	益子町副町長

(4) 審査委員会の開催経過

本事業における審査委員会の開催経過は、表2のとおりである。

表2 審査委員会の開催経過

日 付	内 容
平成22年8月2日(月)	第1回審査委員会 (事業内容及び事業者募集書類に関する審議)
平成22年8月23日(月)	第2回審査委員会 (事業者募集書類に関する審議)
平成22年11月9日(火)	第3回審査委員会 (事業者募集書類に関する審議)
平成23年3月29日(火)	第4回審査委員会 (提案書審査に関する審議)
平成23年4月7日(木)	第5回審査委員会 (事業者ヒアリング、提案書審査に関する審議)
平成23年4月12日(火)	第6回審査委員会 (開札、最優秀提案者の選定に関する審議)

(5) 最優秀提案者選定の手順

最優秀提案者選定の手順については、図1のとおりである。

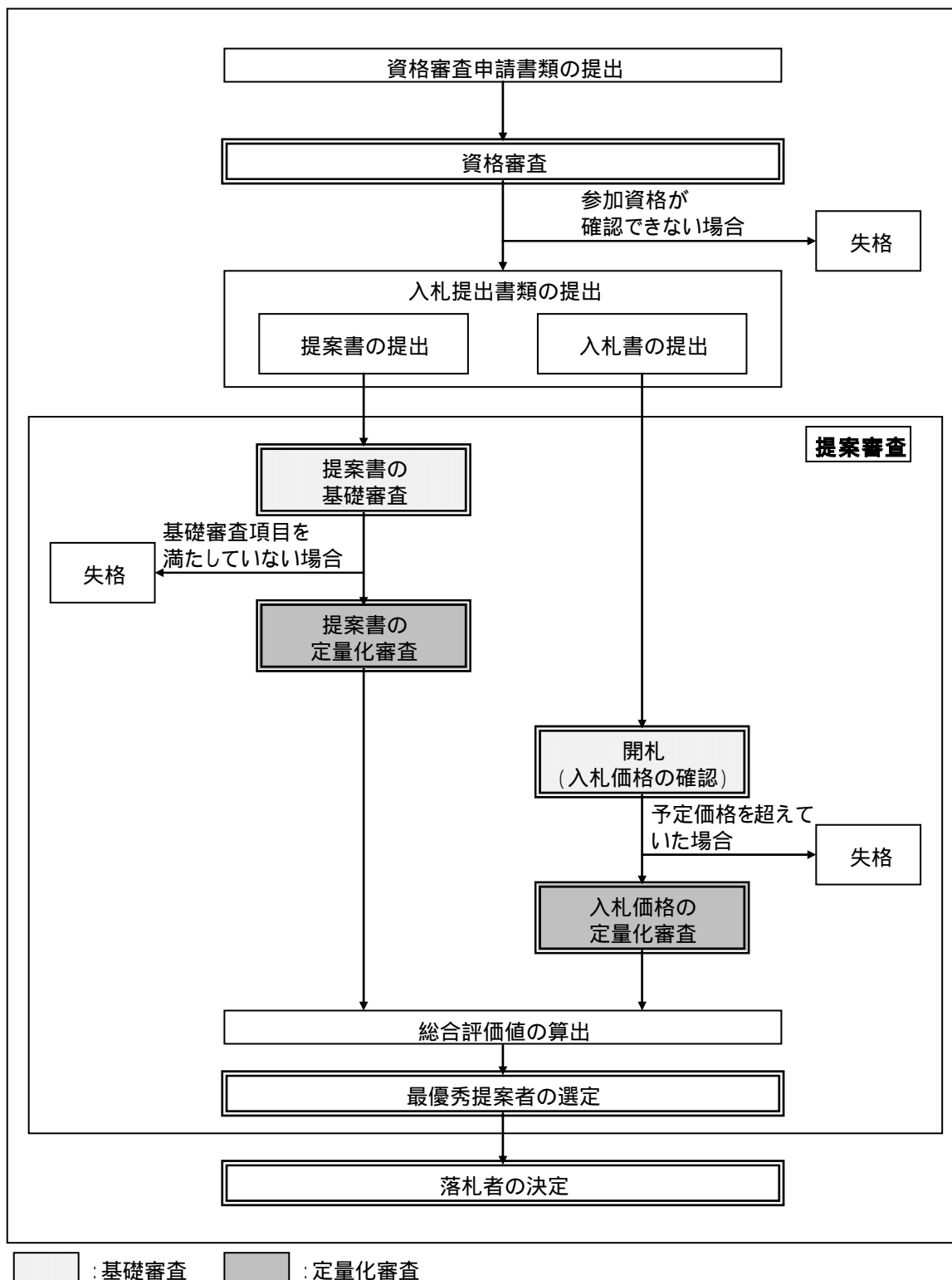


図1 最優秀提案者選定の手順

(6) 審査手順

ア 資格審査

芳賀地区広域行政事務組合（以下「組合」という。）は、入札参加希望者から提出された資格審査申請書類から、入札説明書に記載した入札参加者が満たすべき参加資格要件（以下「参加資格要件」という。）について確認し、確認できない場合は失格とする。

なお、審査結果は応募者に対し通知する。

イ 基礎審査

組合は、入札参加者から提出された入札提案書類により、入札参加者が以下に示す基礎審査項目を満たしていることを確認する。基礎審査項目は、表3のとおりである。

表3 基礎審査項目

基礎審査項目	内 容
入札提出書類の確認	・ 提出された入札提出書類がすべて揃っていること。
提案書の基礎審査	・ 提案書の内容が発注仕様書に示す発注仕様を満たしていること。 ・ 入札説明書及び様式集に示す提案書の作成に関する条件について違反のないこと。 ・ 提案書全体について、同一事項に対する2通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。
入札価格の確認 (開札時実施)	・ 入札金額が予定価格を超えていないこと。

表3の基礎審査項目について1項目でも満たさないことが確認された場合は失格とする。全ての基礎審査項目を満たしていることが確認された場合、当該入札提出書類について定量化審査を行う。

ウ 提案書に関するヒアリング

審査委員会は、基礎審査を通過した入札参加者に対し、各提案内容の確認等を目的として提案書に関するヒアリングを実施する。

エ 定量化審査

審査委員会は、提案書等に記載された内容について、次項(7)に従い定量化審査を行う。

(7) 定量化審査について

ア 定量化審査の流れ

審査委員会は、入札提出書類に記載された提案書の内容及び入札価格について、定量化審査により総合的に審査を行う。

提案書の提案内容については、「イ 技術提案に関する得点化方法」に従って得点化を行う。また、入札価格については、「ウ 価格提案に関する得点化方法」に従い得点化を行う。審査委員会は、技術提案に関する審査項目の得点と入札価格における得点の合計（総合評価値）が最も高い提案を行った入札参加者を最優秀提案者として選定する。

表4 定量化審査における審査項目及び配点

審査項目	配点
1) 全体コンセプトに関する事項	2点
全体コンセプト	2点
2) 設計・建設業務に関する事項	25点
全体計画	7点
安全で安心できる施設	10点
環境負荷の低減をめざす施設	4点
資源循環型社会に寄与する施設	4点
3) 維持管理・運營業務に関する事項	18点
運転管理業務	5点
維持管理業務	5点
環境管理業務	4点
有効利用業務	2点
その他管理・関連業務	2点
4) 事業計画に関する事項	10点
各企業の役割分担及び実施体制	2点
経営計画・事業収支計画	4点
リスク管理方法	4点
5) 地域貢献に関する事項	5点
地域経済への配慮	3点
地域社会への配慮	2点
6) 入札価格に関する事項	40点
入札価格	40点
合計	100点

イ 技術提案に関する得点化方法

(ア) 提案を求めている審査項目においては、次に示す5段階評価による得点化方法により得点を付与する。

表5 技術提案に関する得点化方法

評価	判断基準	得点化方法
A	当該評価項目において、特に優れている	配点×1.0
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	当該評価項目において、優れている	配点×0.5
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	当該評価項目において、要求水準書程度である	配点×0.0

(イ) (ア)の結果をもとに、各入札参加者の素点合計を算出する。

(ウ) (イ)で算出した各入札参加者の素点合計をもとに、次の算定式により、各入札参加者の技術提案に関する得点を付与する。なお、得点は少数第3位以下を四捨五入した値とする。

【技術提案の得点算定式】

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{技術提案に関する得点} \end{array} \right) = 60\text{点} \times \frac{\text{当該入札参加者の技術提案に関する素点合計}}{\text{技術提案に関する素点合計の最高得点}}$$

ウ 入札価格に関する得点化方法

入札価格については、次の算定式により得点を付与する。なお、得点は少数第 3 位を四捨五入した値とする。

【入札価格の得点算定式】

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格に関する得点} \end{array} \right) = 40\text{点} \times \frac{\text{最低入札価格}}{\text{当該入札参加者の入札価格}}$$

エ 総合評価値の算定方法

「イ 技術提案に関する得点化方法」、「ウ 入札価格に関する得点化方法」により算出した各得点から、次に示す算定式により総合評価値を算出する。

【総合評価値の算定式】

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{総合評価値} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{技術提案に関する得点} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格に関する得点} \end{array} \right)$$

オ 定量化審査における審査の視点

表 6 定量化審査における審査項目と審査の視点

審査項目		配点	審査の視点
1) 全体コンセプトに関する事項		2点	
	全体コンセプト	2点	・本件事業の目的を正しく理解し、事業全体の基本的な考え方について、適確な提案がなされているか。
2) 設計・建設業務に関する事項		25点	
全体計画		7点	
	配置動線計画 (屋外、屋内)	2点	・配置動線計画については、安全性はもとより、以下の点で適確な提案がなされているか。 (屋外) 配置計画:第 期計画への配慮 動線計画(人、車両):搬出入車両及び一般利用車の分離 (屋内) 配置計画:メンテナンスの容易性 動線計画:作業員及び見学者等の動線の分離、効果的な見学者動線
	景観	1点	・周辺環境との調和、芳賀地区のシンボルを考慮した、適確な提案がなされているか。
	環境学習計画	2点	・芳賀地区の環境学習施設の拠点施設として、屋内(管理棟等における展示設備等)、屋外(多目的広場、緩衝緑地、雨水調整池等)において効果的な環境学習が行えるよう適確な提案がなされているか。
	施工計画	2点	・施工計画について以下の点で適確な提案がなされているか。 工程計画、品質管理、土量バランス、猛禽類への配慮、建設廃棄物の再利用
安全で安心できる施設		10点	
安定性	処理対象物の質・量の変動への対応	3点	・建設段階における質、量の変動への対応策が十分検討され、実効性の高いものとして適確な提案がなされているか。特に、低位発熱量の低下時については、助燃料の低減に向けた取り組みとして、適切な対応が図られているか。
	安定稼動に向けた処理システムの構築	3点	・トラブルを未然に防ぐための処理システムとして、適確な提案がなされているか。 ・トラブル発生時にも、その影響を最小限に抑えられるようなシステムとして、適確な提案がなされているか。 ・建設段階における施設の長寿命化に向けた取組が十分検討され、実効性の高いものとして適確な提案がなされているか。
安全性		3点	・通常時の安全対策として、適確な提案がなされているか。 ・災害発生時の安全対策として、適確な提案がなされているか。 ・建設段階における利用者及び作業員の安全対策として、適確な提案がなされているか。
実用性		1点	・流動床式ガス化溶融施設の建設実績(稼動実績) ・流動床式ガス化溶融施設の連続稼動日数
環境負荷の低減をめざす施設		4点	
	環境保全	2点	・効率的な施設の稼動と周辺環境への影響を考慮した上で、周辺環境への影響を極力抑えるための保証値として、適確な提案がなされているか。 ・その他周辺環境への負荷軽減に向けた取組として、適確な提案がなされているか。
	CO ₂ 排出量の低減	2点	・施設稼動に伴うCO ₂ 排出量の削減に向けた取組として、適確な提案がなされているか。
資源循環型社会に寄与する施設		4点	
	マテリアルリサイクル	1点	・資源化物(溶融固化物、破碎選別物等)の品質、量の確保に向けた取組として、適確な提案がなされているか。
	サーマルリサイクル	1点	・地域特性等を考慮した効率的な発電と高効率発電との関係を踏まえ、適確な提案がなされているか。
	最終処分量の削減	2点	・最終処分量の削減に向けた取組として、適確な提案がなされているか。
3) 運営・維持管理業務に関する事項		18点	
運転管理業務		5点	
	搬入管理	1点	・熱回収施設、リサイクル施設が併設される施設であることを踏まえた仕組みとして、適確な提案がなされているか。
	効率性・安全性に配慮した運転管理	2点	・効率性と安全性を考慮した適切な運転管理方法として、適確な提案がなされているか。
	搬入・搬出物の性状分析(項目・頻度等)	1点	・法令等を踏まえ必要十分な項目・頻度となっているだけでなく、将来を考慮して運転管理上更なる提案がなされているか。
	処理対象物の質・量の変動への対応	1点	・運営段階における質、量の変動への対応策が十分検討され、実効性の高いものとして適確な提案がなされているか。特に、低位発熱量の低下時については、助燃料の低減に向けた取組として、適確な提案がなされているか。

審査項目	配点	審査の視点
維持管理業務	5点	
維持管理計画の作成及び実施の考え方	2点	・維持管理計画の作成から実施にいたる過程が有効かつ実効性の高い、適確な提案がなされているか。 ・運営段階における長寿命化に向けた取組が十分検討され、実効性の高い、適確な提案がなされているか。
事業終了時の引渡し条件の確実な履行	2点	・事業終了時における引渡し条件の確実な履行ができる仕組みとして、適確な提案がなされているか。
利用者・作業員の安全確保	1点	・運営段階における利用者及び作業員の安全対策として、適確な提案がなされているか。
環境管理業務	4点	
環境保全計画・基準	1点	・公害防止基準、(事業者提案による)保証値を踏まえた環境保全基準として、適確な提案がなされているか。 ・環境保全計画について、適確な提案がなされているか。
停止基準、要監視基準超過時の対応	2点	・停止基準及び要監視基準を超過した際、通常運転復帰までの仕組みとして、適確な提案がなされているか。
作業環境保全計画・基準	1点	・作業環境保全計画及び基準について、適確な提案がなされているか。
有効利用業務	2点	
資源化物の品質の確保と有効利用	1点	・運営段階における資源化物の品質の確保及び有効利用量の確保について、適確な提案がなされているか。 ・組合の行う資源化物の売却に対する支援として、実効性の高い、適確な提案がなされているか。
効率的な余熱利用	1点	・1年間を通じた安定かつ高水準の余熱利用が行えるよう、適確な提案がなされているか。
その他管理・関連業務	2点	
情報管理業務	2点	これらの業務に関して適切な対応が行えるよう、適確な提案がなされているか。
防災管理業務		
その他関連業務		
4) 事業計画に関する事項	10点	
各企業の役割分担及び実施体制	2点	
建設時の体制	2点	・法令等を踏まえ必要十分な体制となっているだけでなく、更なる提案がなされているか。 ・法令等を踏まえ必要十分な体制となっているだけでなく、更なる提案がなされているか。
運営時の体制		
経営計画・事業収支計画	4点	
基本的考え方	4点	・経営計画及び事業収支計画立案の考え方について、適確な提案がなされているか。 ・本件事業の実施を考慮した出資構成について、適確な提案がなされているか。 ・SPCにおいて資金が不足した際のスポンサー企業等の対応について、適確な提案がなされているか。 ・長期にわたる事業としての事業収支計画として、適確な提案がなされているか。
SPCへの出資構成		
資金不足時の対応		
事業収支計画		
リスク管理方法	4点	
リスク管理方針及び管理体制	4点	・本件事業の実施上におけるリスク管理方針として、実効性の高い、適確な提案がなされているか。 ・リスク顕在化確率の極小化、リスク顕在化時の影響の極小化を考慮したリスク管理体制として、的確な提案がなされているか。 ・想定するリスク及びその対応策について、適確な提案がなされているか。 ・リスク顕在化時における事業継続のためにSPCのバックアップについて、適確な提案がなされているか。 ・より具体的で実効性の高いセルフモニタリングとして、適確な提案がなされているか。 ・リスク管理における保険の活用の方と本件事業において付保する保険について、適確な提案がなされているか。
想定されるリスクの対処方法		
セルフモニタリング		
保険の付保		
5) 地域貢献に関する事項	5点	
地域経済への配慮	3点	・地元企業の活用(施設整備時、運営時)、地域での調達(人材、資材)などの地域経済への配慮について、適確な提案がなされているか。
地域社会への配慮	2点	・組合の行う環境教育への支援について、適確な提案がなされているか。 ・事業者として行える周辺住民との信頼関係の確立に向けた取り組みについて、適確な提案がなされているか。

3. 最優秀提案者の選定結果

(1) 資格審査

平成 22 年 11 月 29 日に入札公告を行い、平成 23 年 1 月 5 日から平成 23 年 1 月 7 日に参加表明書及び参加資格確認申請書等を受け付けたところ、以下の 2 グループから申請があった。

資格審査にて当該グループの入札参加資格を確認し、平成 23 年 1 月 14 日に代表企業に対し、入札参加資格を有することを書面にて通知した。

表 7 参加表明書及び参加資格確認申請書等提出グループ

グループ名	日立造船グループ
受付グループ名	めろんグループ
代表企業	日立造船株式会社 東京本社
構成員	日神サービス株式会社
協力企業	五洋建設株式会社 剋真建設株式会社 株式会社石塚土建 松本建設株式会社

グループ名	神鋼グループ
受付グループ名	いちごグループ
代表企業	株式会社神鋼環境ソリューション
構成員	神鋼環境メンテナンス株式会社 東日本支店
協力企業	戸田建設株式会社 宇都宮営業所 大瀧建設株式会社 日正建設株式会社 有限会社松本工務店 株式会社神戸製鋼所 神鋼真岡総合サービス株式会社 株式会社カンエイメンテナンス 株式会社エームス はが野農業協同組合 日生電機株式会社下関支店 真岡事業所 前田道路株式会社 栃木営業所

(2) 基礎審査

平成 23 年 2 月 18 日に入札参加資格を有する 2 グループより入札提出書類が提出された。

提出された入札提出書類をもとに組合が基礎審査項目に沿って基礎審査を行った。これにより、2 グループとも基礎審査に合格しているものと認められた。

なお、入札価格に関しては、平成 23 年 4 月 12 日に入札参加者の立会いのもとで開札を行い、予定価格の範囲内であることを確認した。

審査委員会は、組合から基礎審査の経過及び結果の報告を受け、当該グループが基礎審査に合格していることを確認した。

(3) 定量化審査及び提案書に関するヒアリング

審査委員会は、平成 23 年 3 月 29 日、4 月 7 日の両日に提案書の定量化審査を行い、4 月 12 日の開札に立ち会った後、入札価格の定量化審査及び最優秀提案者の選定に係る審議を行った。提案書の定量化審査に際しては、審査委員会による提案書に関するヒアリングを平成 23 年 4 月 7 日に実施し、入札参加者から提案内容の説明や委員による質疑を行った。

提案書の定量化審査は、落札者決定基準書に基づき、提案内容について厳正に審査し、技術提案に関する事項の得点化を行った。審査結果は表 8 のとおりである。

表 8 技術提案に関する得点結果

審査項目		配点	めろんグループ	いちごグループ	
1) 全体コンセプトに関する事項		2	1.10	1.10	
全体コンセプト		2	1.10	1.10	
2) 設計・建設業務に関する事項		25	12.85	14.00	
全体計画	配置動線計画(屋外、屋内)	2	1.10	0.50	
	景観	1	0.45	0.45	
	環境学習計画	2	0.80	1.40	
	施工計画	2	1.00	1.00	
安全で安心できる施設	安定性	処理対象物の質・量の変動への対応	3	1.35	1.35
		安定稼動に向けた処理システムの構築	3	1.65	1.80
	安全性	3	1.65	1.65	
	実用性	1	0.50	0.75	
環境負荷の低減をめざす施設	環境保全	2	1.40	1.30	
	CO ₂ 排出量の低減	2	1.00	1.30	
資源循環型社会に寄与する施設	マテリアルリサイクル	1	0.50	0.55	
	サーマルリサイクル	1	0.65	0.45	
	最終処分量の削減	2	0.80	1.50	
3) 運営・維持管理業務に関する事項		18	9.35	9.10	
運転管理業務	搬入管理	1	0.60	0.50	
	効率性・安全性に配慮した運転管理	2	1.20	1.20	
	搬入・搬出物の性状分析(項目・頻度等)	1	0.55	0.45	
	処理対象物の質・量の変動への対応	1	0.55	0.55	
維持管理業務	維持管理計画の作成及び実施の考え方	2	1.00	1.20	
	事業終了時の引渡し条件の確実な履行	2	0.90	0.80	
	利用者・作業員の安全確保	1	0.40	0.35	
環境管理業務	環境保全計画・基準	1	0.50	0.50	
	停止基準、要監視基準超過時の対応	2	1.00	0.90	
	作業環境保全計画・基準	1	0.45	0.45	
有効利用業務	資源化物の品質の確保と有効利用	1	0.45	0.65	
	効率的な余熱利用	1	0.75	0.45	
その他管理・関連業務	情報管理業務、防災管理業務、その他関連業務	2	1.00	1.10	
4) 事業計画に関する事項		10	4.80	5.80	
各企業の役割分担及び実施体制	建設時の体制、運営時の体制	2	0.80	1.00	
経営計画・事業収支計画	基本的考え方、SPC への出資構成、資金不足時の対応、事業収支計画	4	2.00	2.20	
リスク管理方法	リスク管理方針及び管理体制、想定されるリスクの対処方法、セルフモニタリング、保険の付保	4	2.00	2.60	
5) 地域貢献に関する事項		5	2.75	2.90	
地域経済への配慮		3	1.65	1.80	
地域社会への配慮		2	1.10	1.10	

技術提案に関する得点の算出

受付グループ名	素点合計	技術提案に関する得点
めろんグループ	30.85 点	56.26 点
いちごグループ	32.90 点	60.00 点

技術提案に関する事項の各審査項目についての評価は、表9のとおりである。

表9 技術提案に関する事項の講評

審査項目		講評	
1) 全体コンセプトに関する事項			
全体コンセプト		<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、発注者の意図をよく理解した優れた提案であった。 	
2) 設計・建設業務に関する事項			
全体計画	配置動線計画（屋外、屋内）	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、屋内外における配置動線計画として利便性等に配慮されたものとなり、発注仕様以上の提案であった。 ・ 特に、めろんグループの提案においては、屋外車両動線に関して、シンプルでわかりやすい計画となっており、期事業時の配置も十分考慮されていた点が評価できた。 	
	景観	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも建設計画地の状況に配慮したデザインコンセプトとなっており、発注仕様以上の提案であった。 	
	環境学習計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも屋内外の環境学習計画について、芳賀地区における循環型社会形成推進に寄与することが期待できるものとなり、発注仕様以上の提案であった。 ・ 特に、いちごグループの提案においては、環境学習手段が多様であった点が評価できた。 	
	施工計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも施工計画において配慮すべき点（工程計画、品質管理、土量バランス、猛禽類への配慮、建設廃棄物の再利用）において、それぞれ独自の提案がなされており、優れた提案であった。 	
安全で安心できる施設	安定性	処理対象物の質・量の変動への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、これまでの経験から、芳賀地区住民の環境問題への意識に配慮された提案がなされており発注仕様以上の提案であった。
		安定稼働に向けた処理システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、これまでの実績が生かされ、安定稼働が期待できる、優れた提案であった。 ・ いちごグループの提案においては、こうした実績から具体的なリスクアセスメントが実施されたシステムである点が評価できた。
	安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、通常時、災害発生時とも、これまでの実績が生かされた安全対策の施された優れた提案であった。 	
	実用性	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、多くの実績を有していた。 ・ 特に、いちごグループの提案においては、流動床式ガス化溶融方式に関して国内トップの建設実績と連続稼働日数を有する点が評価できた。 	
環境負荷の低減をめざす施設	環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、発注仕様以上の提案保証値を設定した優れた提案であった。 ・ めろんグループの提案においては、熱回収施設の排ガス排出濃度の全ての項目に発注仕様以上の提案保証値を設定している点が評価できた。 	
	CO ₂ 排出量の低減	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、CO₂排出量をより低減させた優れた提案であった。 ・ いちごグループの提案においては、より多くのCO₂排出量を低減させた点が評価できた。 	

審査項目		講評
資源循環型社会に寄与する施設	マテリアルリサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、熱回収施設からは溶融固化物、リサイクル施設からは鉄類等について、品質、量の確保に関して、独自の提案がなされており、それぞれ優れた提案であった。 ・ いちごグループの提案においては、より多くの回収量が確保されていた点が評価できた。
	サーマルリサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、ごみ質等の地域特性を考慮して効率的な発電を提案し、発注仕様以上の提案であった。 ・ 特に、めろんグループは、独自の提案により、より高い発電効率となっていた点が評価できた。
	最終処分量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、最終処分量の低減するシステムを提案し、発注仕様以上の提案であった。 ・ 特に、いちごグループは、リサイクル施設からの破碎不燃物も熱回収施設で合わせて処理することにより、より多くの最終処分量を削減する点が評価できた。
3) 運営・維持管理業務に関する事項		
運転管理業務	搬入管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、搬入管理に関し、独自の提案がなされたが、それぞれ優れた提案であった。 ・ めろんグループは、車両管制や記録装置等の提案の組み合わせにより、適切な搬入管理が期待できる点が評価できた。
	効率性・安全性に配慮した運転管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、システムの自動化等により、効率性及び安全性に配慮された運転管理が期待できる優れた提案であった。
	搬入・搬出物の性状分析（項目・頻度等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、必要十分な項目・頻度の提案がなされており、発注仕様以上の提案であった。 ・ 特に、めろんグループは、より多くの測定頻度を設定し管理精度を高めた点が評価できた。
	処理対象物の質・量の変動への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、運転計画などに関して独自の提案がなされたが、それぞれ優れた提案であった。
維持管理業務	維持管理計画の作成及び実施の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、これまでの実績に新たな考え方を取り入れた優れた提案であった。 ・ いちごグループの提案においては、設計技術者が運営開始後も一定期間施設に常駐し、運転員に対して、施設の仕組み等のノウハウを詳細に伝達するという点が評価できた。
	事業終了時の引渡し条件の確実な履行	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、事業終了時においても確実な引渡しが期待できる提案となっており、発注仕様以上の提案であった。 ・ めろんグループの提案においては、引継ぎに関して、より具体性があり、事業期間終了後の保証期間の設定や運転支援の継続等の点が評価できた。
	利用者・作業員の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、運営段階における利用者・作業員の安全対策に十分配慮しており、発注仕様以上の提案であった。 ・ めろんグループの提案においては、ゾーニングによる利用者・作業員動線の分離を行う点が評価できた。
環境管理業務	環境保全計画・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、環境保全計画・基準の設定に関して、独自の提案がなされていたが、それぞれ優れた提案であった。

審査項目		講評
環境管理業務	停止基準、要監視基準超過時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、停止基準、要監視基準超過時の対応に関して、明確に復旧までの手順等の流れが提案されており、発注仕様以上の提案であった。 ・ 特に、めろんグループの提案においては、代表企業のバックアップ体制が明確である点が評価できた。
	作業環境保全計画・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、作業環境保全に配慮されており、発注仕様以上の提案であった。
有効利用業務	資源化物の品質の確保と有効利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、資源化物の品質及び有効利用量の確保、組合の資源化物売却支援に関して、発注仕様以上の提案であった。 ・ 特に、いちごグループの提案においては、具体的な溶融固化物の品質確保方策や実効性の高い資源化物売却支援方策が示されていた点が評価できた。
	効率的な余熱利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、独自の余熱利用方策が示されていたが、それぞれ発注仕様以上の提案であった。 ・ 特に、めろんグループの提案においては、施設の性能を熟知した、操炉計画にも配慮された提案となっており、より多くの発電量が期待できる点が評価できた。
その他管理・関連業務	情報管理業務、防災管理業務、その他関連業務	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、各業務に関して、独自の提案がなされており、優れた提案であった。 ・ いちごグループの提案においては、事業者として積極的な情報公開に取組む点が評価できた。
4) 事業計画に関する事項		
各企業の役割分担及び実施体制	建設時の体制、運営時の体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、建設時、運営時とも必要十分な体制となっており、発注仕様以上の提案であった。 ・ 特に、いちごグループにおいては、より具体的な実行体制となっていた点が評価できた。
経営計画・事業収支計画	基本的考え方、SPC への出資構成、資金不足時の対応、事業収支計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、20 年間の運営・維持管理期間を事業経営を安定して遂行することが期待できる優れた提案であった。 ・ いちごグループの提案においては、資金融資だけでなく、増資についても具体的な提案がなされている点が評価できた。
リスク管理方法	リスク管理方針及び管理体制、想定されるリスクの対処方法、セルフモニタリング、保険の付保	<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、適切なリスク対応が示された優れた提案であった。 ・ いちごグループの提案においては、より詳細にリスク抽出、対応策が検討されていた点が評価できた。
5) 地域貢献に関する事項		
地域経済への配慮		<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、地域経済の活性化に十分配慮された、優れた提案であった。 ・ いちごグループの提案においては、具体的で実効性の期待できる地元企業の活用策が提案されていた点が評価できた。
地域社会への配慮		<ul style="list-style-type: none"> ・ めろんグループ、いちごグループとも、地域社会への貢献が期待できる、優れた提案であった。 ・ いちごグループの提案においては、環境教育への支援が提案されている点が評価できた。

入札価格の得点化を行った結果は、表 10 のとおりである。

表 10 入札価格に関する得点結果

受付グループ名	入札金額（税抜）	設計・建設 業務に係る対価	運営・維持管理 業務に係る対価	得点 （40 点満点）
めろんグループ	18,900,000,000 円	7,750,000,000 円	11,150,000,000 円	38.52 点
いちごグループ	18,200,000,000 円	7,500,000,000 円	10,700,000,000 円	40.00 点

「技術提案に関する得点」、「入札価格に関する得点」を加算して、表 11 のとおり総合評価値を算出した。

表 11 総合評価値の算出結果

受付グループ名	技術提案内容 に関する得点 （ A ）	価格提案 に関する得点 （ B ）	入札価格 （税抜）	落札率	総合評価値 （ A ） + （ B ）
めろんグループ	56.26 点	38.52 点	18,900,000,000 円	95.4%	94.78 点
いちごグループ	60.00 点	40.00 点	18,200,000,000 円	91.9%	100.00 点

（ 4 ）最優秀提案者の選定

審査委員会は、（ 3 ）の結果に基づき「神鋼グループ（受付グループ名：いちごグループ）」を最優秀提案者として選定した。

4 . 総評

本事業は、広域ごみ処理施設である熱回収施設、リサイクル施設の設計・建設及び運営・維持管理について、事業者のノウハウを活用することにより、組合の構成市町から日々発生する一般廃棄物等を、長期にわたり安全かつ安定的に適正処理するとともに、ライフサイクルコストの低減を図ることを目的とした芳賀地区の最も重要な事業のひとつである。

今回、入札に参加した2グループの提案は、本事業の目的や各業務の内容について組合が要求する水準を上回る提案内容であった。2グループにおいては、熱回収施設及びリサイクル施設からなる複合施設の設計・建設、運営・維持管理と事業範囲が多岐にわたり、提案書の作成において多大な労力及び費用負担があったことが想定される。そうした中で短期間に提案をまとめた両グループの熱意と技術力に敬意を表するとともに、深く感謝する。

定量化審査においては、全ての審査項目に対して厳正なる審査を行った結果、株式会社神鋼環境ソリューションを代表企業とする神鋼グループ(受付グループ名:いちごグループ)を最優秀提案者として選定するに至った。

同グループは、設計・建設業務に関する事項では、「環境学習計画」、「実用性」、「最終処分量の削減」が、運営・維持管理業務に関する事項では、「資源化物の品質の確保と有効利用」が、事業計画に関する事項では「各企業の役割分担及び実施体制」が特に評価された。

「環境学習計画」では、当該施設が体験できる環境学習施設として、多様なプランが提案され、芳賀地区の循環型社会形成推進の拠点施設の役割を担うことが期待できるものであった。また、「実用性」では、流動床式ガス化溶融施設における国内最多稼働実績、国内最長連続稼働日数を有することが評価された。「最終処分量の削減」では、リサイクル施設から発生する破砕不燃物を熱回収施設で合わせて処理することで、最終処分量が大幅に低減されるものであった。

また、「資源化物の品質の確保と有効利用」では、具体的な溶融固化物売却支援方策の提案があり、組合の業務範囲である溶融固化物の資源化にも期待ができるものであった。

「各企業の役割分担及び実施体制」では、詳細な実施体制が提案されており、特に、運営段階においては、特別目的会社を中心に、代表企業、構成員及び、協力企業である地元企業がサポートする、効果的な業務の実施体制となっていた。

上記のように各項目を評価しつつも、当審査委員会における審議において、神鋼グループの提案内容に対して以下に示す指摘・要望事項が挙げられた。

- ◇ 管理棟及び多目的広場等を利用する一般利用車の安全対策をきめ細かに検討・実施すること。
- ◇ スtockヤード周辺の動線計画を見直し、構内車両通行の円滑化を検討・実施すること。
- ◇ 低炭素化社会に適合するように余熱利用の更なる効率化を検討・実施すること。
- ◇ 組合と特別目的会社との関係で良好なコミュニケーションが図られるような仕組みを検討・実施すること。

神鋼グループは、上記の指摘・要望事項について、入札及び契約の公平性を妨げない範囲において本事業をより良いものとするため、組合と十分な協議を行うとともに、施設整備と長期の運営事業の実施に誠実に対応し、もって芳賀地区における質の高い公共サービスが確保できるよう期待するものである。

平成 23 年 5 月

広域ごみ処理施設整備・運営事業提案審査委員会
委員長 栗原 英隆